

# 白砂青松の地で

## 書の向上を願って

『書き初め』は「字の上達の祈願」、「新年の目標や抱負を明確にする」という意味を持つ、平安時代より続いている伝統的な行事です。学校では書写学習の中の体験活動として取り組んでいます。

先週から学年ごとに実施していますが、今年は音楽室で書き初めに挑みました（3年生以上の毛筆）。見学に行くと、条幅の枚数が限られていることから緊張した様子、特別な習字の時間にのびのびと筆を動かす様子、そして完成を喜ぶ様子がありました。校舎内に掲示しますので授業参観等で越しの際にどうぞご覧ください。



## 食べられることに感謝

1月24日から30日は「全国学校給食週間」です。食への感謝に期間や場の違いは無いのですが、食材に携わっている方や調理・配送して下さる方にも感謝の気持ちを再確認するようにと、給食センターの方々に感謝の贈り物をつくったり、給食集会で考える機会を持つたりしました。

保健給食委員会がリードした給食集会では、クイズを通して、何気なく食べている物に目を向けさせてくれたり、メニューの意味の新発見ができました。「給食を食べるときの姿勢は？」の問題は全員正解でした。飢餓人口や食品ロス問題にも触れてくれました。当たり前ではない!ともったいない!という思いを普段の食事から意識してほしいと思っています。



まさに1年で一番寒さが厳しくなりました。今年の大寒は1月20日からで、2月4日の立春の前日の節分までの15日間はこの状況が続くと言われていています。「大寒寒波」はなじみがありますが、「大寒卵」という縁起食についてもニュースが伝えていました。あやかりたいものです。

寒くても子ども達は笑顔で外遊びをしています。勢いのある様子にわたし達が元気をもらっています。